

巻 頭 言

地域情報研究所（以下：本研究所）は、政府、自治体、企業、市民等と広く社会的ネットワークを形成するなかで、地域（region：世界の「地域」と日本の「地域」）の物的・知的資源を活用した学術研究を行い、本学の教育・研究活動に資することを目的として1999年4月1日に設立された。とりわけ、地域社会の公共情報、地域の産業・技術情報に注目し、地域社会のネットワークや地域史、人々と社会の関係などをテーマとした研究と、それを通じた人材育成を展開することによって、地域を基軸とするあらたな研究領域・方法の開拓と、より良い地域社会の形成に貢献するという「地域科学」の実践を目指してきた。

2015年度には、これまで本研究所の多くの調査研究を担当してきた政策科学部が、「アジアのゲートウェイ」をキャンパス・コンセプトとして掲げる大阪いばらきキャンパス（OICキャンパス）に移転した。これを契機に、本研究所の研究対象をアジア地域のさまざまな課題に拡大させて、「グローバル視点」「ローカル視点」「グローカル視点」の3つの視点による総合的な研究活動を展開している。

2016年度からスタートした第3期研究高度化中期計画（2016-2020年）においては、「地域科学」の追究をさらに進化させるために、3つの重点研究プロジェクトを設置している。「アジア・フューチャー・プロジェクト」は、アジアにおける多様かつ複雑な問題を研究する「グローバルな視点」による共同研究である。「北摂地域における社会文化資源の再発見と発信に関する学際的研究（通称、北摂プロジェクト）」は、OICが所在する大阪府茨木市を中心とする地域に蓄積されてきた社会文化的・歴史的資源を、社会学、歴史学、経済学、経営学、社会心理学などの学際的なアプローチによって整理・再発見し、それらの資源をオープンデータ化し、同地域の社会文化的・歴史的資源を統合的に参照できる形で発信することを目指す「ローカルな視点」の研究である。そして、「人口転換期における日本とアジアの都市政策研究プロジェクト」は日本とアジア諸国の都市化過程における都市問題の新たな局面に着目しつつ、それらの動向に関連した政策科学上のテーマについて「グローカルな視点」から研究を行うものである。

本研究所の紀要「地域情報研究」は、地域情報研究所の設立理念と研究活動の展開を反映した研究成果集である。特に2017年度の本号は、2016年度より始動した重点プロジェクト2年目にふさわしい研究成果である6論文、3研究ノートが収められている。英語による成果が4本あること、立命館大学の将来を担う若手研究者の成果が多いことが、本号の特筆すべき点である。本号は、地域情報研究所における研究の更なる展開と高度化に資するものと確信している。

立命館大学地域情報研究所
研究所長 上久保 誠人
2018年3月